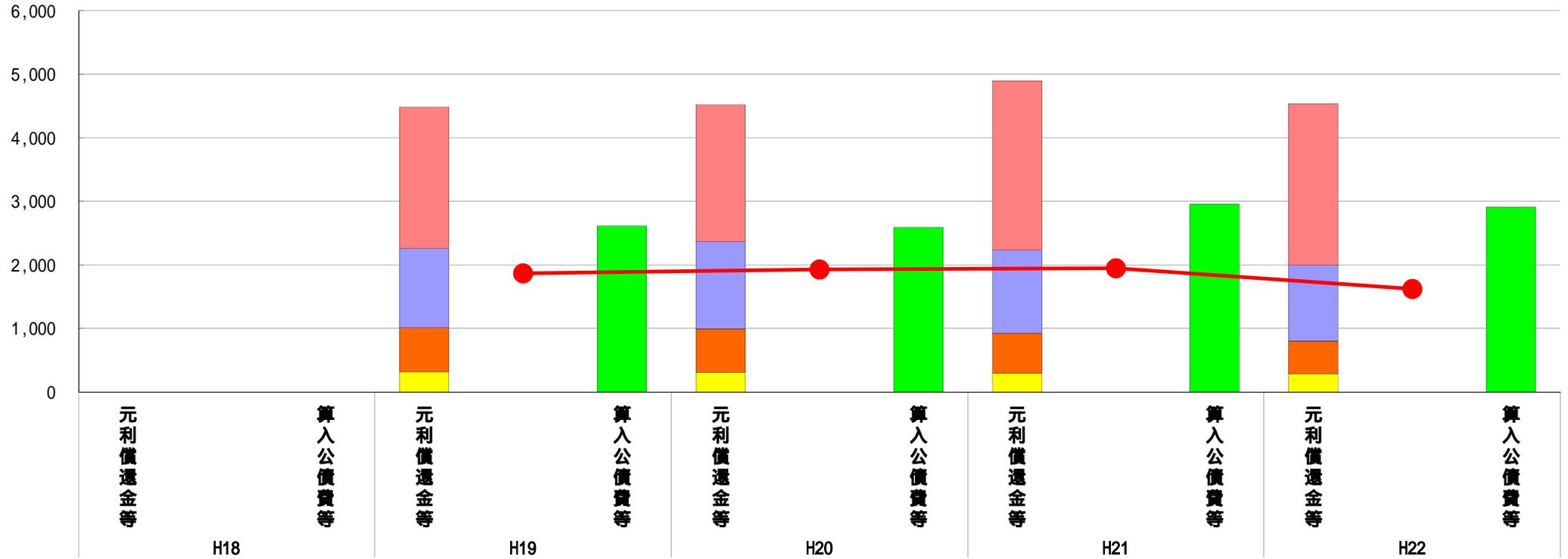


(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

岡山県笠岡市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H18	H19	H20	H21	H22
元利償還金等(A)	元利償還金	-	2,223	2,154	2,662	2,538	
	積立不足額考慮算定額	-	-	-	-	-	
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	-	-	-	-	-	
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	-	1,247	1,374	1,310	1,193	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	696	679	628	514	
	債務負担行為に基づく支出額	-	316	311	298	288	
	一時借入金利息	-	-	-	-	-	
算入公債費等(B)	算入公債費等	-	2,615	2,591	2,951	2,909	
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	-	1,867	1,927	1,947	1,624	

分析欄

・繰上償還額を控除した元利償還金の額は、市債借入額の抑制や補償金免除繰上償還の効果で年々減少している。
 平成19年度と平成20年度は特定財源を控除した後の額で計上しているため、額が少なくなっている。特定財源を控除する前の額は、平成19年度が2,717百万円、平成20年度が2,698百万円

・元利償還金が年々減少しているにもかかわらず、平成21年度までは実質公債費比率の分子が増加しているのは、基準財政需要額へ算入される公債費の減が主な要因である。
 平成21年度と平成22年度は算入公債費等に特定財源が含まれているため、額が増えている。算入公債費だけの額は、平成21年度が2,476百万円、平成22年度が2,376百万円

・公債費を減少させる取り組みを継続的に実施しているため、元利償還金や公営企業債の元利償還金に対する繰入金の額は、今後も減少していく見込みである。

平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。